

家庭科「保育体験学習」における高校生と幼児の学びの特徴

Characteristics of learning in home economics child care learning program for high school students

吉川 はる奈*

Haruna YOSHIKAWA

尾城 千鶴**

Chizuru OJIRO

秋吉 幸恵***

Yukie AKIYOSHI

1. 問題と目的

少子高齢化する社会への対応は現代日本が抱える大きな課題の1つで、「社会で子どもを育てる」ことが求められている。その中でさまざまな子育て支援の量はたしかに増加したが、課題は多い。一律な支援が目立ち、支援が必要な対象に支援が届いていないと言われる。支援が必要となる前、リスク予防の取り組みの重要性とともに若年層への教育的な働きかけも期待されている。

伊藤(2007)は、「親性」を「次世代の再生産と育成のための資質」とした上で、「親性」の形成過程において、段階的に形成される資質を「親性準備性」とし、中・高校生の発達段階における「親性準備性」の育成における保育体験学習の教育的効果を社会的自己効力感という視点から、明らかにしている。この保育体験学習については、戦後一貫して中・高校生への保育教育を担ってきた家庭科においては、多くの意欲的な教師による実践が蓄積されてきており、その成果に関する研究も発表されている。特に高等学校学習指導要領における普通教科「家庭」の保育に関する領域では、高校生が乳幼児と直接触れ合う体験をもつ工夫が求められている。少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていない状況から、家庭の在り方や家族の人間関係や子育てについての学習が求められ、家庭科における改善の方向性として、家庭や家族に関する教育や子育て理解のための体験や高齢者との交流を挙げてきた。特に高等学校では、家庭や地域社会を主体的に築くことを重視し、親になる観点からの保育体験学習を行うことが挙げられている。しかし、現実には実践が先行し、高校生が、子どもや保育に対してどのような意識を持ち、そこにはどのような要因が影響しているのかといったことが後付けになっている(尾城・吉川2010)。保育体験学習の効果に関する先行研究では、伊藤と武藤が、中学・高校生を対象に調査し、子どもに対して興味・関心の高い生徒は、低い生徒と比べて明朗で素直で無邪気などの子どものイメージが強いことを明らかにしている。また、中西と牧野(1989)は、高校生が乳幼児と触れ合う体験を増やすことと関連して、「子ども好き」という感情を育てることが、親になることへのよい準備状態の形成に役立つことを強調している。大路と松村(1998)は、雑誌掲

載事例から分析した乳幼児体験学習の主な学習効果として、保育体験学習に対する学習意欲が高まり、子どもに対する興味関心が増し、生徒の感情や態度がよくなること、生徒自身自分の生き方について考えるようになることなどを挙げている。このように、保育学習においては、子どもへの興味・関心などの情意をイメージで測定し、好感情が親準備性を高め、子どもに対する感情のよくない生徒は、幼児との関わり方が少なく、効果的な学習を行っているとは言えないという指摘もある。

本研究では、様々な幼児とのふれ合い体験が混在している現状に沿って、普通科高校での保育体験学習による学びの特徴を検討する。具体的には、高校生の近隣幼稚園での保育体験学習の様子を観察し、エピソード記録と高校生が終了後に記述した感想を分析して特徴を整理する。得られた課題を明確化することで、教育的効果を高めるための示唆を得るとともに、多種多様なふれ合い体験における送り手(高校)と受け手(保育施設)の相互に主体的な関係性の捉え直しにつなげていきたい。

2. 対象と方法

S県立K高校、3年生の保育選択者2クラス(23名と28名)、計51名(男子17名、女子34名)を対象に行った。選択科目「発達と保育」において保育体験学習を実施しており、平成20年からは、2年生全員に「家庭総合」で保育体験学習を行うようになった。高校側は、実習を行うことで生徒に大きな効果をもたらすことの期待感とともに「多様な生徒を外部の機関で実習させること」への不安感が大きく、実施には課題も多い。対象とした3年生は、全員が2年時に家庭総合の授業の一環で保育体験学習を行っており、そのなかで数学、情報、保育の中から保育を選択した51名である。直前の指導として教員が資料を用い幼稚園での子どもの過ごし方、様子や幼稚園の環境を説明した。

保育実習先は、高校から徒歩5分の私立K幼稚園で約200名の園児が在籍している。園庭にはさまざまな遊具があり、近くにはビオトープが新設されている。

* 埼玉大学教育学部生活創造講座

** 埼玉県立栗橋北彩高校

*** 東京都特別支援学校

・調査期間

2010年6月～2010年11月。計6回（6月4回、9月1回、11月1回）の授業観察を行い、1クラスにつき年間2回の保育体験学習場面の観察を行った。保育体験学習の観察は幼稚園到着から幼稚園を出るまでで、高校生が幼児と関わる様子を観察し、エピソードをフィールドノートに記録、必要に応じてデジタルカメラによる記録も行った。さらに保育に対する考え方や幼児に対するイメージの変化を見るために、第1回の保育体験学習と第2回の保育体験学習終了後に質問紙調査を行った。本稿では、紙面の都合上、観察によるエピソード記録と質問紙中の体験の感想部分の記述を分析し、2期の保育体験学習による学びの特徴を比較検討した。

・調査内容

幼稚園での保育体験学習での幼児と高校生とのやりとりの特徴を分析した。

なお質問紙の内容は以下の8つを設定した。記入は自記式で、記入方法は質問項目に対して該当する項目に○をつける方式と自由記述方式の2方式を混合したものとした。i)属性、ii)結婚後の男女の役割の考え方、iii)子どもとの接触体験状況：「中学校以降の子どもとの接触体験について」という1項目を設定した。「赤ちゃんを抱く、おんぶ」「小さな子のお守りを1人でする」「きょうだいや親戚の子ども世話」「近所の小さな子どもと遊ぶ」「子ども会の行事などの手伝い」「サークルやボランティア」「授業などで観察・子どもと遊ぶ」の中から重複しても良いという条件の下で回答を求めた。iv)

子どもに対する考え方：「小学校低学年以下の子どものことを日頃どのように思っているか」について、「好き嫌い」「いとおしい—わずらわしい」「かわいい—憎らしい」「おもしろい—つまらない」「興味がある—興味がない」の5項目で、それぞれ5件法で回答を求めた。v)自分自身の親の、子どもの育て方について「親の子ども育て方について」という1項目を設定した。「父親」「母親」の区別はせずに「親」と表記し、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の4件法で回答を求めた。vi)高校卒業後について、vii)最近の子どもに対する問題について、viii)保育体験学習についての感想を自由に記述してもらった。

記入は自記式で、記入方法は質問項目に対して該当する項目に○をつける方式と自由記述方式の2方式を混合したものとした。事前調査の項目に合わせて比較できるようにした。

・分析方法

高校生が幼稚園に到着してから、幼稚園を出るまでの間の高校生と幼児のやりとりをフィールドノートに記入し、エピソードを認定した。エピソードとは、高校生と幼児が身体的（視線・表情などを含む）・言語的行動のやりとりをした時点で開始され、一つあるいは関連する話題について交わされる会話・やりとりのまとまりとした。

エピソードは、全353エピソードを得た。得られたエピソードを、高校生と幼児がやりとりをするきっかけとなったことを指標に分類した（表1）。

表1 幼児と高校生のやりとりのきっかけ分類

開始	分類名	定義
幼児	① 幼児からはたらきかける	幼児が高校生に声をかけたり、手をひっぱったりすることから関わりが始まるもの。
	② 高校生の遊びに幼児が参加	高校生が遊具で遊ぶ、高校生同士の遊びを楽しむところを幼児が見る、声をかけるところから遊びが始まるもの。高校生による発表も含む。
高校生	③ 高校生からはたらきかける	高校生が幼児に声をかける、近くに寄っていくことから関わりが始まるもの。幼児に対する注意喚起、幼児が泣いた時の対応も含む。また幼児の遊びを見てコメントを言うものも含む。
	④ 幼児の遊びに高校生が参加	幼児が遊具で遊ぶ、幼児同士の遊びを楽しむ所を高校生が見る、声をかけるところから遊びが始まるもの。幼稚園での活動に高校生が参加すること（朝の歌を一緒に歌う、作業を一緒にやるなど）も含む。
	⑤ 他の高校生の関わり方を真似	他の高校生が幼児に接している様子を見て真似をし、幼児と関わるもの。他の高校生が幼児と遊んでいる所に参加するものも含む。
先生	⑥ 先生からはたらきかける	先生からの提案で遊びが始まる、先生から何かを頼まれることによって関わりが始まるもの。

3. 結果と考察

(1) 高校生と幼児のやりとり開始のきっかけの変化

図1は1回目と2回目で幼児と高校生のやりとりのきっかけの変化を示した。図1のように、幼児と関わるきっかけには種類があり、1回目の実習では高校生が幼児の遊びに参加するが28%と多かった。幼児と高校生

どちらも慣れていない様子の中で高校生が何とかきっかけを作って参加している様子だった。2回目は幼児も慣れ、幼児から働きかけるが36%で最も多かった。また高校生が他の高校生のかかわり方を真似るは1回目が16%だったのに対し、2回目は減少し2%と減少した。多くの高校生が2回目は慣れたことを示しているものと思われる。

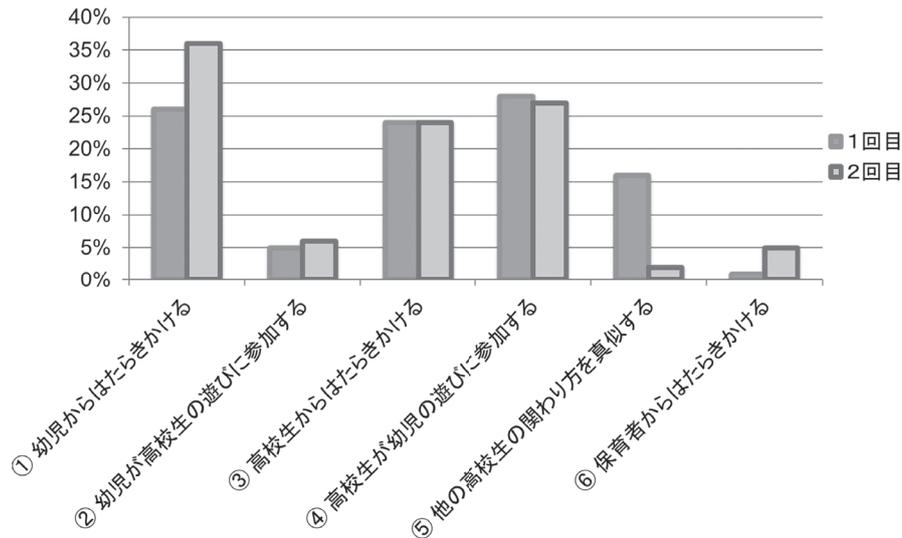


図1 やりとり開始のきっかけの変化

(2) やりとり開始のきっかけの具体例

① 幼児からはたらきかける

エピソード：幼児に囲まれ折り紙を次々見せられる高校生B子（写真①）

折り紙を折って画用紙に張り付ける作業の時間、B子は幼児の間に座る。B子は自分の隣の席の幼児、前の席の幼児だけでなく後ろの席の幼児からも話しかけられ、作品を見てほめた。

<省察>制作活動の時間。B子は近くの席の子に作品を見せられると、大きな声で褒めた。その声を聞き、後ろの席の幼児も次々にB子に作品を見せる。作品を褒めている声を聞いて、自分も褒めてほしくて幼児から声をかけた



幼児に囲まれて座る高校生（写真①）

② 高校生の遊びに幼児が参加する

エピソード：じゃんけんをする高校生I介、L夫、L也（写真②）

園庭でじゃんけんを始めるI介、L夫、L也。数人の幼児が近くに集まって来る。（写真②-2）

<省察>幼児の遊びに入って行けないI介、L夫、L也は3人でじゃんけんを始める。途中で幼児が近づいてくるが、3人で盛り上がる。高校生3人の様子が楽しそうに見えたのか、幼児はその場で3人の様子を興味深そうに見て話しかける。幼児にとって、高校生の男の子の盛りあがっている様子が珍しかったのだろう



高校生をよく見ている幼児
（写真②、右②-2）



③高校生から働きかける

エピソード：近くの幼児に話しかける高校生 E 也（写真③）

朝の活動の時間、高校生 E 也、E 介、E 夫、E 太は教室の端に 4 人でかたまってる。幼児に 1 番近いところに座っている E 也は積極的に幼児に話しかける。すると幼児も高校生に近づいてくるようになり、E 也以外も園児と関わる。

<省察> E 也、E 介、E 夫、E 太の 4 人が教室の端に座ったのは、幼児のロッカーの前だと邪魔になってしまうと考えた為かもしれない。E 也が幼児に話しかけると、他の幼児が 4 人の方に近寄っていく。幼児たちは高校生 E 也からの働きかけをみて安心したようだ。



高校生が積極的に幼児に働きかける（写真③）

④幼児の遊びに高校生が参加

エピソード：幼児のサッカーに参加する高校生 N 太、N 介（写真④）

高校生 N 太、N 介は幼児のサッカーに加わる。コートの中で子どもたちは走り回り、相手のゴールを狙う。N 太、N 介は子どもたちのボールさばきに驚きながら、ボールを追う。

<省察> N 太、N 介は数人の園児がサッカーをしているところに参加する。思っていたよりも幼児が上手にサッカーをする様子に驚き、また子どもたちに遠慮しているのか、N 太、N 介はあまりボールを触ることがなかった。身長差がかなりあり、足元を細かく動き回る園児たちに、どれくらいぶつかっていったら良いのか戸惑いながら、幼児の遊びに参加したようである。



幼児が行うサッカーに加わる（写真④）

⑤他の高校生の関わり方を真似

エピソード：高校生 B 子を見て参加し始める高校生 B 里（写真⑤）

朝の活動で幼児たちが歌を歌うと、高校生 B 子は幼児を見て一緒に振付をしている。高校生 B 里は最初見ているだけであり、B 子の様子を見て少しずつ参加するようになる。

<省察> 高校生 B 子は慣れない幼稚園での活動に積極的に参加し、初めてでよくわからない振付も、幼児を真似して一緒に体を動かす。高校生 B 里は恥ずかしがっているようで、最初は幼児の様子を見ているだけであったが、同級生の B 子の様子を見て恥ずかしさが和らいだのか、徐々に活動に参加する。また、このクラスは朝の活動の前に机と椅子を出し、幼児の席の間に高校生も入っていたため 2 人は自然に活動に参加できたのだろう。



友人をまねて身体をうごかす高校生（写真⑤）

家庭科「保育体験学習」における高校生と幼児の学びの特徴

(3) 高校生が保育体験の感想として記述した内容
表2は第1回目の保育体験学習の感想を、表3は第2回目の保育体験学習の感想を分類したものである。2回目の方が幼児の特徴に加え、生徒自身の気づいたこと感情を多く記述した。第1回目は幼児の特徴の気づきについて記述するものが多かったが、それ以外にも、園

の施設や先生の動きをはじめさまざまなことに気づいたことがうかがわれる。はじめての保育体験学習で初めて見るものも多く、戸惑っている様子が見えたと感じた。2回目終了後の記述では、園の施設や先生の動き等への記載は減少し、幼児の特徴と自分自身に対する気づきを中心に記述したものが目立つ。

表2 第1回保育体験での感想 (6月)

上位カテゴリー	下位カテゴリー	記述例
① 生徒自身の気づき (59事例)	楽しい (13)	・クラスに行って、色々遊んで楽しかった。 ・皆遊びが楽しそうだったもので自分も楽しかった。
	大変 (20)	・子どものあいては、とてもつかれた。 ・子どもはとても元気で少しの時間だったけど疲れた。
	嬉しい (4)	・今回、最後の時間がなくてみんなと遊ぶことが出来なかったけど、プレゼントを作っているときとかいっぱい声かけてくれたので嬉しかったです。 ・さよならのときの、タッチとギューは泣きそうになった。
	驚いた (11)	・先生が「みなさん」っていうと「ハイ」って元気よくあいさつしていて、きちんとあいさつもお返事もできていてすごいと思った。 ・ぶっつかも子供のくせに強いのですごいなと思いました。
	接し方・工夫 (6)	・おしゃべりがすきな子人見知りの子とかそれぞれで接するのがむずかしかった。 ・説明するのがむずかしかった。
	勉強になった (4)	・いろいろなことをやったと思う。 ・あまりなつかなくて大変だったけど、よい経験ができた。
② 幼児の特徴の気づき (136事例)	子どもの様子 (58)	・子どもが元気でかわいかった ・よく走りまわる。
	遊びの特徴 (67)	・おにごっこ、が好きみたいだった。 ・外で遊んで中では歌ったり星の形に切ったりした。
	子どもからの働きかけ (6)	・女の子達がおりがみで作ったリボンをくれた。 ・園児の方から歩寄ってきたから、すんなりとなじむことができた。
	自分との比較 (5)	・とても小さくて自分もこんなに小さかったのかなと思った。 ・久しぶりに小さい子と遊んで、自分たちにはない行動一つ一つがかわいかったです。
③ 次への期待 (48事例)	実習への興味関心(46)	・また11月に行くのでどのくらい成長しているのか楽しみです。 ・11月ではもっと積極的に子供と接したい
	将来への希望 (2)	・11月の実習では、自分の将来の為に役立つと思うので、楽しみにしています。 ・自分に子どもができたときに生かせることを学べたのでよかった
④ 他者の働きかけへの気づき (48事例)	先生について (48)	・先生達は子供達が喜びそうな遊びを次々と考えていてすごいと思いました。 ・先生の注意のしかたが、園児向けで小さい子に分かりやすく注意していた。
⑤ 園についての気づき(42事例)	園の施設 (42)	・全体的に物が低い。 ・教室内の掲示物がかわいく作られていた。
⑥ その他(2事例)		・私はチューリップ組を担当しました。 ・教室に入って自己紹介

表3 第2回保育体験での感想 (11月)

上位カテゴリー	下位カテゴリー	記述例
	楽しい (27)	・子どもたちと、なわとびをしたりして遊んで楽しかったです。 ・いろいろあったけど楽しかったです。

家庭科「保育体験学習」における高校生と幼児の学びの特徴

① 生徒自身の 気づき (165 事例)	大変 (19)	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達がみんな元気で一緒に遊ぶのが大変だった。 1日幼稚園にいたるとなるとやっぱり大変だなぁというのがありました。
	嬉しい (35)	<ul style="list-style-type: none"> 最後まできちんと話をきいてくれたのでうれしかったです。 M代ちゃんと言われたのがうれしかったです。
	驚いた(32)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが前より、凄く成長しているなと思いました。 残す子があまりいなく、おかわりをする子がたくさんいてびっくりでした。
	接し方・工夫 (25)	<ul style="list-style-type: none"> 漢字はまだ難しいらしく、私が子どもの手をにぎって一緒に書いたりしました。 となりにすわりたくてケンカしてくれたけどジャンケンさせて決めた。
	勉強になった (27)	<ul style="list-style-type: none"> 色んなことを言うし、行動するし、私たちも勉強することがいっぱいありました。 子どもたちが危険なことをしていたらすぐ注意しようと思いました。
② 幼児の特徴の 気づき (151 事例)	子どもの様子 (74)	<ul style="list-style-type: none"> みんな元気よく楽しそうに遊んでいました！ 1回目に行ったときと違い、いろいろなところで成長したな、と思いました。
	遊びの特徴 (57)	<ul style="list-style-type: none"> 外であそぶ方がたのしそうだった！ かごめ、かごめ、をやってなわとびをして遊びました。
	子どもからの 働きかけ (15)	<ul style="list-style-type: none"> カレーたべるとき3人の男の子が一緒にたべよって言ってくれていた。 スキンシップを求めてくる
	自分との比較 (5)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちのごはんが私の 1/3 くらいの量でめっちゃめっちゃびっくりしました。 朝は子供たちと自由に遊んで、とても朝から元気だな、と思いました！
③ 次への期待 (30 事例)	実習への 興味関心 (8)	<ul style="list-style-type: none"> また機会があったら行きたいです。 また一緒に遊びたい！
	将来への希望 (22)	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の先生にはならないけど、自分が親になったとき、ちゃんと育てていきたい。 今後、子供とふれあうときがあったら遊びの相手をしてあげる。
④ 他者の働きか けへの気づき (29 事例)	先生について (29)	<ul style="list-style-type: none"> 先生は常に子どもたちの面倒を見ていてすごいなって思ったし体力と精神力が必要だなぁって思いました。 先生は子どもたちに対して同じ目線で話していた。
⑤ 園についての 気づき (27 事例)	園の施設 (13)	<ul style="list-style-type: none"> 段差があまりなかった 教室の飾り付がカラフルだった。
	仕事 (14)	<ul style="list-style-type: none"> 終わったあとは先生の手伝いでトイレそうじをした。 片付けなど手伝いました。
⑥ その他(2 事例)		<ul style="list-style-type: none"> 今回が初めての实習でした！！ グループの人がいなくて最初はどうかと思ったけど、C香が来てくれてフォローしてくれてすごくありがたかった。

(4) 生徒自身の気づきの変化

図2は1回目(6月)と2回目(11月)の生徒自身の気づきとして分類したものを下位カテゴリー別に比較したものである。

1回目から2回目にかけて「楽しい」がやや減ったが、「大変」が大幅に減少し、「嬉しい」が顕著に増加した。

そして保育体験学習を「大変」と捉える事も顕著に減っていることがわかった。また、「接し方・工夫」や「勉強になった」が増加しており、生徒自らが、2回の経験の中で、幼児と関わる際の接し方を試行錯誤する中で、着実に学んだことがうかがわれる。

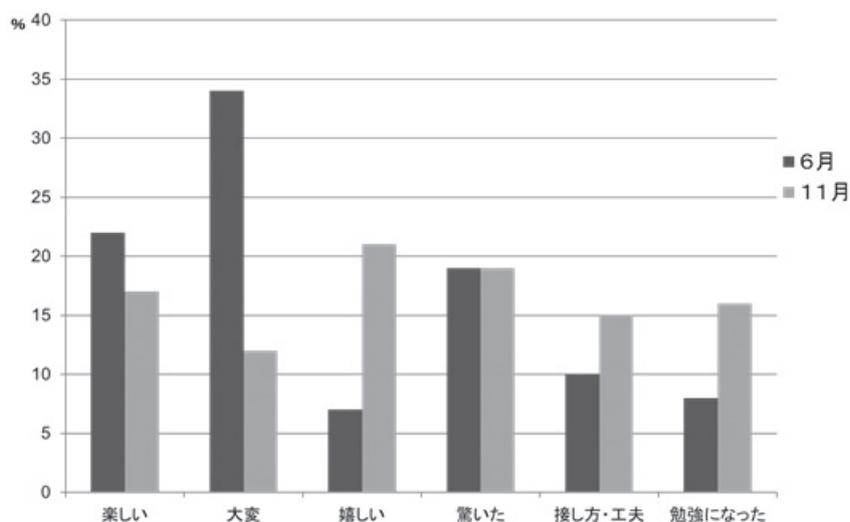


図2 生徒自身の気づきの変化

(5) 触れ合い体験での幼児と高校生の相互の成長

保育触れ合い体験学習による学びは大きい。本研究の結果からも、初めての体験の中で、幼児も高校生も戸惑いながら学んでいくことがわかった。高校生も幼児もそれぞれ、たがいに相手から学び、きっかけは両方から生じていた。

また、高校生に関しては、幼児だけでなく、一緒に参加している友人からもきっかけを得ていた。

このように保育触れ合い体験学習による学びには、机

上での学習にはない、臨場感やインパクトある経験の中で戸惑いながらの大きな学びを得ている。特に、通常は見せない姿を年下の幼児に見せる高校生の姿を報告する教師も多い。

家庭科保育触れ合い体験学習での学びの効果は高校生に対しては指摘が多いが、受け手側の幼児においても、大きな学びがあることも含め、相互に学ぶ機会としてさらなる検討が望まれる。

【引用・参考文献】

- ・伊藤葉子 中・高校生の家庭科の保育体験学習の教育的課題に関する検討 日本家政学会誌 Vol. 58 No. 6 315-326 2007
- ・小川裕子、林希美 静岡県「高校生保育・介護体験実習事業」における「保育体験」実践の型とそれぞれの課題—家庭科保育学習との関連から 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 No. 15 53-61p 2008
- ・浅井玲子、前原武子、田原美和 高校生の保育に対する認識と性差の検討 琉球大学教育学部紀要 43-49 2002-2009
- ・中嶋明子、砂上史子、日景弥生、盛玲子 高校家庭科における保育体験学習者の意識変容（第1報）保育体験学習者の意識変容過程の構図化 日本家庭科教育学会誌 46-4 351-360 2004
- ・砂上史子、日景弥生、中嶋明子、盛玲子 高校家庭科における保育体験学習の意識変容（第2報）日本家庭科教育学会誌 48-1 10-21 2005
- ・尾城千鶴、吉川はる奈 高等学校「家庭総合」における保育体験学習の効果と課題 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 第9号 149-158 2010
- ・矢萩恭子 次世代育成としての乳幼児とのふれあい体験～中学生・高校生の「保育体験学習」に関する実践の検討～ 田園調布学園大学紀要 第2号 125-153 2007